

# そらんぽへ行こう

固 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

## 大正～昭和初期のくらしを彩った デザイン約370点を紹介

博物館では、4月11日(土)から5月31日(日)まで特別展「大正イマジユリィの世界くらしを彩るデザイン」を開催します。

大正時代の日本は、印刷技術の革新とともに出版文化が花開いた時代でした。本や雑誌の装丁、絵はがき、ポスターなどには、藤島武二、橋口五葉、竹久夢二などの気鋭の画家たちによって、新鮮で多彩なイメージが生み出されました。また、杉浦非水や小林かいちなどの図案家も登場し、モダンデザインに影響を与えます。



杉浦非水  
《レタータブレットの表紙》  
『非水月刊図按』第1巻第1号付録1



竹久夢二  
『汝が碧き眼を開け』  
(セノオ楽譜56番) 7版

今日、こうした大衆的な印刷物や版画は、イメージ図像を意味するフランス語である「イマジユリィ (imagerie)」と総称され、現代にも影響を与える豊かな視覚文化として注目されています。

本展では、監修者・山田俊幸の貴重なコレクションを中心に、当館所蔵の小林かいちの絵封筒も紹介します。当時の人々の暮らしを彩ったイマジユリィのモダンな世界をぜひご堪能ください。

# 文化財さんぽ

固 文化課 (TEL) 354-8238 (FAX) 354-4873

## 水辺に生きる希少な生き物

市内の川、海岸、水田、湿地には多様な生物が生息しています。とりわけ、楠地区の吉崎海岸は、春から初夏にかけハマヒルガオなど海浜植物の花が咲く本市唯一の砂浜のある海岸で、アカウミガメの産卵が見られることがあるほか、県鳥であるシロチドリしろちどりの営巣地でもあります。

シロチドリは、海岸や河川敷で見られる体長約15cmと小柄な渡り鳥です。白と茶色の模様が特徴で、海辺の砂浜や干潟に現れ、潮の満ち引きに合わせて餌を探す姿はとても愛らしく感じさせます。巣に外敵が近づくと、



砂浜で餌を探すシロチドリ

卵やひなを守るべく、親鳥は巣から遠ざけるための「擬傷」という行動をとります。自身が怪我を負ったように装い、外敵の注目を集めるのです。シロチドリのこのような行動が見受けられたら、その場を離れてあげてください。

シロチドリは、実は絶滅が危惧されています。環境の変化で、生活の中心である砂浜が減少していることが原因の一つだと考えられています。守るべき貴重な生物が豊富な吉崎海岸で、動植物をそっと観察してみたいかがでしょうか。